

令和6年度 特別養護老人ホーム幸せの里事業計画書

1.基本方針

介護保険の極「尊厳の保持」と「自立支援」を念頭に施設理念である「自分の親にしてあげたいお世話と自分が住みたいホームへの実践」を追求し続けることで顧客満足度の拡充をはかります。感染対策を徹底したうえで家族に会える環境を提供していくことが施設選択のセールスポイントとなるよう尽力し、「選ばれる施設」としての地位構築につとめます。同時に時代に見合った快適さを装備し清潔感にあふれ、プライバシーを重視した生活環境の整ったハードを提供します。さらに働き方改革を意識した人事管理の下、サービスマナーを身につけ、高品質サービスを提供できるスタッフの育成をはかり、地域に愛され、信頼され、選ばれるオンリーワン施設を目指します。

2.主要事項

- (1) 法令順守
- (2) 介護職員の資質の向上と専門性の確保
 - ① 施設外研修への参加推進と施設内研修会の活性化
 - ② 感染管理体制の確立と業務継続計画（BCP）の作成と周知
 - ③ ケアプランに即した生活支援、入所時からターミナル期へ段階に応じた適切なケアマネジメントの提供
 - ④ 身体拘束排除、高齢者虐待防止の徹底教育
 - ⑤ IT活用による記録時間の短縮、データ活用による介護支援の効率化
 - ⑥ 栄養マネジメントの充実と口腔衛生管理の強化
- (3) 働き方改革、同一労働同一賃金への対応
 - ① 適正な勤務管理によるサービス残業の防止と有給取得の推進
 - ② 勤務時間や勤務内容の明確化による正職員とパート職員の分別化
 - ③ 職務、職能に応じた人事考課体制の確立
 - ④ ハラスメント防止
 - ⑤ 知人、家族を誘いたい職場環境設定（人材確保強化）
- (4) 面会制限の緩和、家族との信頼関係構築
- (5) 空きベッド期間の短縮と加算項目追加による増収

1.通所介護事業

地域のなじみの利用者がともに集い、語りあい、入浴や食事提供を支援することで在宅生活の継続を支援します。ウォーターベッドマッサージ機や電磁治療器の利用を楽しみにされる方も多く、利用者ニーズ、地域ニーズに沿ったレクリエーションの提供を行うことで社会的孤立を妨げ、心身機能の維持向上を目指していきます。介護重度者の入院、施設入所や新型コロナウイルス感染症罹患をおそれる利用控えの影響で1割減となった稼働率の回復に時間を要し、新年度こそ定員34名に対し70%の稼働、すなわち1日平均2.4名の利用達成を目指します。同時に地域高齢者の掘り起こしを行い、新規利用者の獲得につとめながら間近に迫る団塊の世代の多様なニーズを充足するサービス提供の拡充を準備模索していきます。

2.在宅介護支援センター

法人全体のセールスマンとして対象者の掘り起こしを行う一方で、行政や地域民生委員、すこやかアドバイザーと各種サービス事業所のコーディネートを行うという中核的役割を担いながら今後予想される団塊世代の多種多様なニーズに対しても柔軟に対応できるよう準備体制を整えます。大規模法人が利用者も職も囲い込み、私達小規模法人は合併吸収の対象となり淘汰されないためにも自法人の強みを活かし、25年来地域に種まいたこれまでのノウハウを活用し、選択いただく力を確実に構築して参ります。同時に他法人の活動状況にも目を向け利用者動向をつかむことで新規利用者獲得につとめます。また本来業務である地域の在宅介護支援の拠点として重要な役割を果たすために自己研鑽と組織基盤の強化、充実につとめることとします。

3.居宅介護支援事業所

介護保険の屋台骨、居宅のケアマネージャーが持てる件数は1人あたり最大35名。同一事業所利用の報酬減算や優良介護支援専門員の確保困難による事業所廃止や統合が増える中、一人主任ケアマネ体制を確固たるものとし、平均33件の最大定員確保にて安定増収をはかったうえで公正中立なケアマネジメント提供につとめます。同時に利用者が可能な限り在宅生活を継続できるよう、主治医をはじめ、サービス事業所を繋げるコーディネーターとしての役割を十二分に発揮し、利用者が自らの判断で適切にサービスを利用できる「利用者支援」を実現します。すなわち利用者が自らの人生のために、介護サービスを活用して生きていく力が持てるようサポートを行っていきます。同時に在宅サービスにおける事業継続計画についても具現化をはかっていきます。

令和6年度 事業計画書

(ケアハウス すこやかハイツ)

社会福祉法人 愛和会

1.基本方針

安心して生活できる快適な住まいの提供と、個々の状況に応じた適切なケアマネジメントの実践につとめ、その人らしい暮らしの継続支援を目指します。

2.主要事項

- (1) 利用者の個別の状況に応じた適切なケアマネジメントの提供
- (2) 生きがい活動、介護予防的活動の推進
- (3) 利用者の将来の不安に備え、事業所間の情報交換の活性化と連携を密に行い、必要時に適切かつ迅速なサービス提供、施設、入院先等々の紹介を実行できるよう備える。

3.広報、運営について

対象利用者の掘り起こしを行いながら、希望者はもとより居宅ケアマネ、病院連携室等の問い合わせ情報を糧に丁寧な説明を繰り返すことで1日も早い空室の解消をはかる。顧客満足度拡充のため26年の歳月を感じさせない清掃の行き届いた清潔なハードの維持、栄養管理はもとより、嗜好に配慮した良質な食事の提供、高品質なサービスマナーを保持したスタッフの気持ちよい接遇、さらに病院や買い物等の外出援助など、利用者の多様なニーズに対し、柔軟な姿勢で対応できる体制を構築することで理想の施設へのマッチングをはかる。同時に感染対策についても継続して最善策を講じながら在宅サービスの参加、受入を柔軟に行い、充実した日常生活の支援につとめていく。

現行の生協の移動販売車については高評価を得られており、週2回の受入を継続する。また地理的障害を解決するため訪問診療を積極的に活用し、主治医、ケアマネージャーをはじめとする、専門職との連携を深められるようにする。利用者の虚弱化が進行し、ケアハウスでの生活が行き詰った場合、階下特養への入居を含め、中間施設の紹介や一時的入院の調整をはかり将来への不安を解消できるよう支援する。さらに法人内で合同研修の実施や協力体制を構築しながら、職員一同一層研鑽することに努めていく。